

シンポジウム 「9 条問題の本質。そして、 その抜本的な解決を論ずる」

5月3日の安倍首相の改憲宣言を受けて、自民党が、公明党や維新など他党を巻き込んで来夏の夏にも発議しようとしている「9条改正案」（1項2項は触らず3項で自衛隊明記）は、これが国民投票で可決されれば、明文改憲の形をとった究極の解釈改憲となる。

こうした欺瞞的で意味のない〔改正発議⇒国民投票〕ではなく、解釈改憲に終止符を打ち、立憲主義と国民主権を蘇らせるための「9条改正案⇒国民投票」はあるのか？

あるいは、現行9条のままでいいというなら、（条文護持派は）その9条は自衛戦争を認めている、いないを明確にすべきではないのか？

発議阻止、現状維持だけでは、解釈改憲状態の抜本的解決には至らない。国民は主権者としてこの問題にどう向き合い行動すればいいのか。そうしたことを論じ合い、参加者とともに考えます。

言論・報道者の方々のみならず、市民・学生のみならず、ぜひ御参加ください。

伊藤 真（伊藤塾・塾長。正統的9条護憲派。『やっぱり9条が戦争を止めていた』など憲法に関する著書多数）

伊勢崎賢治（東京外大教授。自衛隊を活かす：21世紀の憲法と防衛を考える会呼びかけ人。「新9条」の制定を提唱）

井上達夫（東大大学院教授。政治哲学者。護憲・改憲両派を厳しく批判し「9条削除」を提唱。言論界屈指の論客）

堀 茂樹（慶應大名誉教授。専門はフランス文学および哲学。デモクラシーの真價を見極め、忌憚のない論評を発信している）

今井 一（ジャーナリスト。「戦争するのかしないのか」を主権者・国民が決めるべしと主張。著書に『「憲法9条」国民投票』、『国民投票の総て』）

コーディネーター

楊井人文（弁護士。日本報道検証機構代表）

8月24日（木）13時～16時 参議院議員会館 [12時半開場／定数50人]

取材を含め参加は自由ですが報道者を含め資料（A4で30頁）代・参加費として1000円徴収します（学生は500円）。事前の申し込みが必要です。参加希望者は〔国民投票／住民投票〕情報室 info.ref.jp@gmail.com へ、御名前＋電話番号を記して8月17日までに申し込んで下さい。